三鷹市立高山小学校　令和8年度【　　家庭　　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	○調理実習の計画や実践を通して、基本的な調理方法について理解することができた。火や包丁の扱いに経験の差があることから、教え合いが進んでいる班もあれば、経験が乏しく進まない班もあった。サポートに入っていただき、安全に実習をすることができた。 ○夏季・冬季休業中に宿題として「お手伝い大作戦」を行い、授業で学んだことを生かして児童が食事作りや洗濯などに家庭で取り組む機会を設定することができた。 ○ミシンの実習は、２学期後半から基本的な操作の指導を少しずつ始めたので、ミシンの基本的な操作の技能を向上させることができた。手縫いとミシンの違いを体感し、それぞれの良さや難しさを理解することができた。 ○家庭科のワークを購入し、実習前の計画や実習後の振り返りに活用し、知識や思考の整理に役立てることができた。	○調理や手芸の学習において、児童の経験内容に差が見られた。家庭での経験があり、スムーズに調理や手芸ができる児童がいる一方で、これまでの経験がほどんどない児童も多い。丁寧な指導が必要なため、技能の向上に時間がかかる。 ○お茶とゆでいもの実習を行った。班によって協力できた班と、分担がうまくいかなかったり、作業に時間がかかってしまったりする班があった。自分たちの力で作ることができ、家庭科の楽しさを感じている児童が多かった。 ○遠足でも学んだことを生かしてカレー作りを行うことができ、達成感を感じる様子が見られた。学園サポーターを活用し、１クラスに二人程度のサポートを受けて、安全や技能面での助言を受けられるようにした。 ○手芸の学習では、興味をもって一生懸命取り組んでいる児童が多いが、細かい手先の作業に時間がかかる児童が多かった。 ○基礎や基本的な知識については毎時間、家庭科の教科書を読んで確認したり、ワークシートにまとめさせたりしているが、振り返りについては深く考えて書けている児童が少ない。単元ごとにテストを行っており、知識・技能は得点が高いが、思考・判断・表現の得点が低い児童が多い。	○お手伝いのワークシートや夏休みには「トライシート」の課題を出し、各家庭の協力の下で授業で学んだ調理や手芸を復習したり発展させたりするような機会をもつようにさせる。 ○ 参加の促進（雰囲気づくり）、場や時間の構造（学級環境の整備、授業の見通し）を考えて行う。準備、手順等を図と短い言葉で視覚化し、分かりやすいように掲示する。 ○ 体験的な活動（製作、調理等）を行う際には、学園サポーターなど地域の人材活用（コミュニティ・スクールの特性）を行い、安全な実習のサポートをする。また、技能の基礎・基本の定着につながる個別的な支援ができるようにする。 ○ICTの活用（実物投影機、タブレット活用） を行い、「教材」や「教具」を工夫する。 裁縫の基礎的な技術の動画を繰り返し視聴したり、スライド等で作った作品を共有させたりする。 ○意図的に「協働学習」を行う。ペア学習（意見の交換）、グループ活動（役割分担、発表）、話し合い活動（学級全体での振り返り）等を計画的に行う。自分の考えだけでなく、友達の考えや工夫等も知ることで、思考力が深まるようにする。
第6学年	○調理経験には個人差があったが、スクールサポート等の協力を得ることで全員で作業を分担し、安全に調理実習をすることができた。 ○休業期間中のお手伝いをすることで学習したことの定着を図ることができた。 ○生活様式の変化により、食事や住まい、衣服についての知識が不足している児童が多くなっているため、課題発見の場面を工夫することで、探究意欲を高め、主体的に学べるようにする必要がある。 ○学習用タブレット端末の活用により、学習問題について追究したり調べた情報をまとめたりさせる活動を、円滑に行うことができた。	○学んだ知識、技能を生活に生かす場面が不足しているため、夏季休業、冬季休業期間に、「チャレンジカード」を配布し、調理や掃除などに取り組むよう促している。 ○裁縫の学習では、興味をもって意欲的に取り組んでいるが、技能の能力差が大きい。そのため、ミシンの練習時間を取り、前年度の学習を振り返るなど技能の定着のための工夫をしている。 ○学習したことを家庭科ノートにまとめるなど大事なことはおさえているが、課題解決の方法を自ら考えたり、表現を工夫したりする力が弱い。	○調理やミシンの学習では、スクールサポート等の協力を得たり、実習では班活動で取り組ませたりして技能の基礎・基本を定着できるようにする。 ○休業期間中のお手伝い（調理）の取り組みを継続する。 ○課題発見→課題解決・実践活動→評価・改善のサイクルにより、主体的に課題を解決していく力を伸ばすように指導する。 ○実習や実践学習を行うことにより、知識・技能を身に付けさせるとともに、デジタル教材を活用して、理解を深めていく。また、日本の伝統にも触れ、季節ごとの暮らし方の工夫への関心を深め、生活の中に根差した日本の伝統にも触れさせていく。